

## 地域おこし協力隊の2人に委嘱状交付 三木奈津美さんと佐々木拓哉さん

町は8月3日、企業研修型地域おこし協力隊の三木奈津美さんと佐々木拓哉さんの2人に委嘱状を交付しました。

三木さんは旭川市出身で、グラフィックデザインなどの事業を行ってきました。特産品開発のほか、森林や一次産業に関する知見を深めて新たな事業展開を図るのが目標です。また、佐々木さんは広島県出身で、林業関連の会社で木材チップの生産管理などを担当していました。木材の需要開拓と流通拠点づくりを目指します。

委嘱状の交付後、三木さんは「厚真町は、北海道で今、一番熱いマチだと思います。将来、森林関係の会社を立ち上げたい」と語り、佐々木さんは「北海道ならではの木材の供給や人とのかわりを深めながら、地域を盛り上げたいと思います」と抱負を語りました。



町長を挟んで委嘱状を手にする三木さんと佐々木さん(左から)



## 東京2020パラリンピック厚真町採火式 上幌内モイ遺跡で見つかった 火打石にちなんで火起こし

東京2020パラリンピック厚真町採火式(町運営委員会主催)が8月14日、軽舞遺跡調査整理事務所前広場で行われました。厚真町では、厚幌ダム工事の際の発掘調査で上幌内モイ遺跡から平成16年に見つかった約1000年前の道内最古の火打石にちなみ、厚真川上流で採取したチャートと呼ばれる火打石で火を起こしました。

パラリンピックの採火式は、全国47都道府県で行われ、聖火リレーに使う採火の火には、多様な光(人)が集まり出会うことで、共生社会を照らす光にしようとの思いを表現しています。

町採火式には、NPO法人ゆうあいネットあつまや身体障がい者福祉協会厚真支部、町議会から来賓が出席。社会福祉法人北海道厚真福祉会はリモートで参加しました。司会者の合図で、代表者が五輪マークの施された5つのテーブルで一斉に火打石で火を起こし、たいまつを使ってランタンに移しました。

全国で行われた採火の火は当初、東京に集約して聖火リレーとして競技開催地を巡る予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で東京への集約は一部地域にとどまりました。



火打石で着火した火をたいまつに灯す参加者たち(上)両手を掲げてトーチに灯した火を披露する身体障がい者福祉協会厚真支部副支部長の中川登さん(下)

## 夏の交通安全運動 95人が街頭啓発

夏の交通安全運動初日の7月13日、厚真市街地の交差点で町内の事業所・団体など95人が街頭啓発しました。

重点目標は、飲酒運転の根絶やスピードダウン、全席シートベルトの着用、子供と高齢者の交通事故防止です。参加者は、のぼり旗を持って交差点の沿道に整列し、行き交うドライバーに交通安全を呼びかけました。



交差点の沿道で交通安全を呼びかける参加者たち

こども園つみき(油谷諭園長)と宮の森こども園(宮下葉子園長)の年長児36人が7月16日、こども園つみきの前庭で遊びを通じて交流を深めました。

両こども園は、年間3、4回、相互交流していますが、新型コロナウイルス感染症の影響で、今年の交流は今回が初めて。こども園つみきの前庭には、整備されたばかりの大きな山や滑り台、トンネル、丸太を組み合わせてジャングルジムのように仕立てた「森のラビリンス」と呼ばれる遊具などがあります。園児の中には裸足で駆け回る子もいて、前庭は楽しげな声に包まれました。

## こども園つみきと宮の森こども園 年長が交流



山の滑り台などで元気に遊ぶ園児たち



## ザ・ロイヤルエクスプレスに体験乗車 被災3町の児童が優雅な鉄道の旅を満喫

北海道胆振東部地震の被災3町(厚真町、安平町、むかわ町)の児童20人が7月27日、豪華観光列車のザ・ロイヤルエクスプレスに体験乗車し、JR札幌駅からJR南千歳駅まで優雅な鉄道の旅を満喫しました。

体験乗車は、北海道鉄道活性化協議会、東急株式会社、JR北海道の3者が主催。8月13日からの運行に先立ち、被災地の児童から希望を募り、町内からは厚真中央小学校と上厚真小学校の児童6人が参加しました。JR札幌駅では、出発の前に鈴木知事が「北海道の素晴らしさをみんなからも発信してください。楽しんでください」とあいさつし、子どもたちを見送りました。

子どもたちは、ダイニングカーでバイオリンの演奏を聴いたり車窓から景色を楽しむなど、約1時間の列車の旅を楽しみました。



出発前の車両を背に記念撮影する厚真町の参加者(上)ダイニングカーでバイオリンの演奏に耳を傾けるこどもたち(下)写真提供:東急株式会社